

1 単元 Sunshine English Course PROGRAM 6 Our Hopes, Our Plans

2 指導観

○ 国際交通手段の利便性の向上に加え、ICT（情報通信技術）の飛躍的発達により、国際化がますます加速する現代社会において、あらゆる場面において人・もの・情報の交流が迅速かつたくさん行われてきている。特に、インターネットなどのICT（情報通信技術）の飛躍的発達により、様々な情報を簡単に収集することや交換することが可能となり、海外の人々とのコミュニケーションや文化との触れ合いがより身近なものになってきている。もちろん、どの国においても国際交易によって外貨を獲得することが重要であることは現代社会では常識であるが、鉱石や燃料などの資源の乏しい日本においては、優れた人材こそ国を支える貴重な財産である。この場合における優れた人材とは、グローバルな視点を持ち、また、世界で多く使われている英語を有効に活用できる人材などのことを意味する。そうした社会情勢の中で、中学校においては、英語を通して世界に通用するコミュニケーションの基礎を養成できる生徒を育成したい。

本課は、テレビ電話を用いての意見交流である。地理的に遠く離れた場所（オーストラリアのシドニー）にいる外国の生徒の将来の夢や計画を互いに聞きながら、自分の希望を伝え合うというものである。世界で多く使われている英語を駆使して、自分の希望や考えをお互いに理解しあうことを実感させることは、これからの国際社会を生きる生徒達がコミュニケーション能力を身につけていくうえでもとても意義のある単元である。

ここで取り扱う言語材料は、「不定詞」の名詞的用法・副詞的用法・形容詞的用法の3用法である。「不定詞」の理解と運用を通して、生徒は自分のしたいこと（・なりたいもの）・行動の理由などが表現できるようになっていけば、コミュニケーション能力の向上につながることを期待できる。

○ 本学級の生徒は、男子 名、女子 名、計 名で構成されている。約6割の生徒は英語活動が好きではないと答えている。だが、ほとんどの生徒は将来的には英語によるコミュニケーション能力を身につけたいと希望している。生徒達は授業に真剣に取り組んでおり、授業内容をノートに整理することや新出文法事項をまとめたプリントを解くことに関しては熱心である一方、英語による会話活動には今一步消極的である。その理由は、上手に話すことができないことが相手とのコミュニケーションを妨げているのではと敏感になりすぎていることである。アンケートにおいても、「英語を書く活動が好き」と答えた生徒は67%だったのに対して、「英語を話す活動が好き」と答えた生徒は43%だった。多くの語彙を習得することに関して、面倒くさいと最初から諦める生徒も少なくないが、そういった生徒でも新出文法事項に関しては、スモール・ステップによるプリントを授業中にやり遂げる。

4技能に関するアンケートの結果、「英語を話す能力」を身につけたいとする生徒が全員であり、基本的かつ実践的なコミュニケーション能力を習得させたい。

○ 指導にあたっては、事前の職場体験学習で学んだ職業とのつながりを意識し、この単元の学習が生徒たちの「立志」(福岡スタンダード)につながることを期待している。

- ・新出文法事項の導入にあたっては、電子黒板を使用したビデオやパワーポイントやワークシートを使用して、生徒たちに入力しやすいように印象づける。
- ・英語での会話活動が得意で積極的な生徒を Student Teacher に任命し、ネイティブ・スピーカーとのやり取りを模範として提示させる。

3 目標

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	・既習の表現を使って、積極的に自分がしたい行動が何であるかを伝えようとしている。
表現の能力	・自分の気持ちが伝わるように、話したり、書いたりすることができる。
理解の能力	・本文の内容や話し手の内容を理解することができる。
言語や文化についての 知識・理解	・to 不定詞の名詞的用法を使った英文の仕組みを理解している。

4 指導・評価計画 (7時間)

配時	学習活動・内容	指導の留意点	評価規準 (評価の方法)	評価基準 (関心・意欲、表現、理解、言語・文化)		Cと判断される 生徒への手立て
				A	B	
1	英語の歌を編集したビデオを視聴し、want to への表現を知る。 S1の基本文を理解し、それを用いて表現活動をする。 ・want to +動詞の原形	・より身近な例文を提示し、口頭練習を取り入れることで、不定詞の名詞的用法が慣れさせる。 ・want to +動詞の原形の調音に注意させ、意味を正確に理解させる。	関：NSによるペア・ワークやグループ・ワークに積極的に参加している。 ＜様相チェックとプリント分析＞ 言：want to への文の仕組みを理解している。＜プリント分析＞ 表：不定詞の名詞的用法を用いて、自分のしたいことを表現することができる。＜プリント分析＞	・より多くの友達と積極的に英語で会話をしようとする。 ・不定詞の名詞的用法を用いて、自分の思いを的確に表現することができる。	・基本文や例文を参考にある程度正確な英文を話せて、また、書くことができる。	・ワークシートに記入できるように例文を提示し、to不定詞の名詞的用法の決まりを理解させる。
本時 1	英語の歌を編集したビデオを視聴し、既習内容を思い出す。 S1の新出語彙、既習内容を再確認し、音読の練習をする。 What do you want to do?と相手に尋ね、また、それに答えてI want to ~と答える表現活動を行う。 What do you want to be in the future?と相手に尋ね、また、それに答えてI want to be ~と答える表現活動を行う。	・前時の既習事項である「～したい」want to ~や「～になりたい」want to be ...を確認させる。その上で、更に「あなたは何をしたいのですか?」What do you want to do?と言えたり、それに答えてI want to ~と答えたりすることができるように指導する。	関：不定詞の名詞的用法を用いて、自分のしたいことややりたいものについて、自ら進んで相手に尋ねたり、相手からの質問に答えようとしている。＜様相チェックとプリント分析＞ 表：不定詞の名詞的用法を用いて、自らの希望や進路を表現することができる。＜様相チェックとプリント分析＞	・want to ~を使った表現を自ら進んでできる上、ノートに既に整理しており、発表することができる。 ・授業に積極的に参加し、発音練習も大きな声で音読し、教師からの質問に積極的に答える。	・want to ~を使った表現を多少間違えながらでもしている。ノート整理を完了しようとする。 ・授業に積極的に参加し、発音練習も大きな声で音読する。	・want to ~を使った表現を例示し、表現活動に参加できるように支援する。
1	S2の基本文を理解し、それを用いて表現活動をする。 ・to不定詞の副詞的用法の定着を図る。	・JTEによる文法導入と展開において、自己表現の練習や発表を行わせる。 ・不定詞の副詞的用法が使用される状況や、その用法を正しく理解させる。	関：積極的に英語で参加している。＜プリント分析＞ 表：to不定詞の副詞的用法を用いて、英文を作ることができる。＜様相チェックとプリント分析＞ 理：NSやJETの英語を聞いて理解することができる。 言：to不定詞の副詞的用法について、文の仕組みを理解している。	・より多くの友達と積極的に英語で会話をしようとする。 ・相手に分かるように明瞭な声で発表できる。基本文を正しく使い、まとまりのある英文を5文以上書くことができる。	・NSやクラスメートの英語を聞いて、おおまかな内容を理解できる。 ・例文やセントを元にて表現することができる。	・英文を理解するために、キーワードを開き取らせる。 ・英文を作るポイントを教えた上で、to不定詞の副詞的用法を使った英文が理解できるように支援する。
1	S2の新出単語、教科書の本文を理解し、音読の練習をする。 ・to不定詞の副詞的用法のさらなる定着を図る。	・本文の内容を読み取らせ、個人とペアによるリーディングチェックをさせる。	理：教科書の本文の内容を理解している。＜プリント分析＞ 関：意欲的に本文の音読の練習をしている。＜様相分析＞ 言：本文を正確に読むことができる。＜様相分析＞	・本文の内容を正確に読み取ることができる。	・本文の内容を大まかに読み取ることができる。	・本文中の重要表現や語彙を復習ノートに書いて練習させる。
1	S3の基本文を理解し、それを用いて表現活動をする。 ・to不定詞の形容詞的用法の定着を図る。	・不定詞の形容詞的用法が使われる状況や、その用法を正しく理解させる。	言：to不定詞の形容詞的用法について、文の仕組みを理解している。 ＜プリント分析＞ 表：to不定詞の形容詞的用法を用いて、英文を作ることができる。 ＜プリント分析＞	・to不定詞の形容詞的用法を用いて、状況に応じて的確に表現することができる。	・例文を参考に、ほぼ正確な英文で表現することができる。	・例文を提示し、to不定詞の形容詞的用法の決まりに気づかせ、多くに英文を書くように指示する。
1	S3の新出単語、教科書の本文を理解し、音読の練習をする。 ・to不定詞の形容詞的用法のさらなる定着を図る。	・本文の内容を読み取らせ、個人とペアによるリーディングチェックをさせる。	理：教科書の本文の内容を理解している。＜プリント分析＞ 関：意欲的に本文の音読の練習をしている。＜様相分析＞ 言：本文を正確に読むことができる。＜様相分析＞	・本文の大切な部分に加え、細かい部分までも正確に読み取ることができる。	・本文の意味を大まかに読み取ることができる。	・本文中の重要表現や語彙を復習ノートに書いて練習させる。
1	to不定詞の3用法を用いて、自己表現活動のテーマとして設定している「In my future」の英作文を完成させる。	to不定詞のまとめとして、3用法の正しい使い方を再度確認させ、自己表現の内容を充実させる。	表：to不定詞の3用法の使い方を正しく理解した上で、自分の思いを的確に伝えようとする一連の英文を作ることができる。 ＜プリント分析＞	・to不定詞の3用法を用いて、基本文をそのまま引用することをしないうえ、まとまりのある一連の英文を正確に5文以上書くことができる。	・to不定詞の3用法を用いて、基本文を引用しながら、ほぼ正確に3～4文の英文を書くことができる。	・単語や熟語、基本文や例文を提示し、ヒントを与えながら支援を行う。

5 本時 平成22年10月 日(水) 第 校時 場所: 2階 多目的室 授業クラス: 第2学年 組

(1) 本時の目標

- 不定詞の名詞的用法を使って, 自ら進んで表現活動に取り組もうとしている。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- 不定詞の名詞的用法を使って, 自らの希望や進路を表現することができる。(表現の能力)

(2) 本時の指導観

前時までに生徒は, 不定詞の名詞的用法を用いて「～したいと思う」「…になりたいと思う」という基本文を習っている。

本時は, 不定詞の名詞的用法を用いて, 自分が実行したいことや自分の将来の希望について英語で表現することをねらいとする。

まず, Activity①として vocabulary test を実施する。その目的は, 休み時間から学習時間への意識の切り替えを行わせることと, 授業で使う語彙の認識をさせることである。

答え合わせはNSによる電子黒板を使用したフラッシュカードの提示と発声練習で行う。(知識)

次に, Activity②として Dictation (聴き取り) を実施し, NSが発音した内容を聴いた上で英文に書き取り, 日本語にも変換する。その内容は, 前時で学習した教科書の基本文である。よって, 答え合わせのための解答は教科書の基本文を活用するが, NSによる電子黒板を使用したフラッシュカードの提示と発声練習で行う。(理解)

また, Activity③として, 音楽を活用したビデオ(前時に見せている)を見せて, 不定詞の名詞的用法の I want to ～. や I want to be … .を思い返させる。その上で, 本時の目標を提示する。それは, ①What do you want to do?と口頭で相手に尋ねることができ, それに対して I want to ～.と書いたり話したりして答えることができるとあり, また, ②What do you want to be? と口頭で相手に尋ねることができ, I want to be ….と書いたり話したりして答えることができることである。以上の表現活動が円滑に行われるようにパワーポイントによるQ&AをJTEが再度見せて発声練習をする。

更に, Activity④として, 生徒に配布しているワークシートを電子黒板にも提示し, 電子黒板に書き込みながら I want to ～. や I want to be … .という英文を書いて作らせ, その上で発声練習をする。

最後に Activity⑤として, ①What do you want to do?と口頭で相手に尋ね, それに対して I want to ～.と書いたり話したりして答えること。②What do you want to be? と口頭で相手に尋ね, それに対して I want to be ….と書いたり話したりして答える活動を行う。

- (3) 準備 ①電子黒板 ②(電子黒板用) コンピュータ ③電子フラッシュカード ④ピクチャーデータ ⑤教科書 ⑥授業用ノート
⑦ワークシート ⑧ビンゴカード

6 過程

学習活動・内容 Procedure	資料 用具	指導上の留意点 Teaching guidance	形態	配 時	評価規準(評価の方法) How to evaluate	評価基準		Cと判断される生 徒への手だて
						A	B	
1. Greetings		・英語学習の雰囲気を作る。	JTE	2				
2. Activity① vocabulary test	フラッシュ カード ワークシート	・語彙力検査を真剣に受けさせる。 英語の授業へと集中させる。	NS	5	関: NSの発音練習に意欲的に 取り組む。	・NSとの発 音練習を真 剣に行っ ている。	・NSとの発 音練習を行 っている。	
3. Activity② Dictation (聴き取り)	ワークシート	・聴き取って書き取る活動を促す。	NS	3	理: NSの発話内容を理解す ることができる。	・全問正解	・1問不正解	

<p>4. Activity③ Review (復習) ビデオ視聴とパワー ポイント視聴</p>	<p>電子黒板 コンピュータ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に習った内容を思い返させる。 ・本時の目標を把握させる。 <p>① What do you want to do?と尋ねることができ、I want to ～.と答えることができる。</p> <p>② What do you want to be? と尋ねることができ、I want to be ….と答えることができる。</p>	<p>JTE</p>	<p>7</p>				
<p>5. Activity④ 「私は～したいと思う。」 「私は…になりたいと思う。」</p>	<p>電子黒板 コンピュータ ワークシート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・I want to ～の文章を作らせる。 ・I want to be …の文章を作らせる。 	<p>JTE</p>	<p>9</p>	<p>知 : I want to ～やI want to be …の文章を作ることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全問できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・I want to ～.の文はその語順に注意することと～の部分には動詞の原形を入れることや、I want to be の文の語順を注意させて、授業についていかせる。
<p>6. Activity⑤ 「あなたは何をしたいのですか。」「あなたは何になりたいのですか。」という相手の問いかけに答えることができ、また、同じ問いかけを相手にもできる。</p>	<p>電子黒板 コンピュータ ワークシート ビンゴシート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Activity④であらかじめ用意している自分で作った英文を用いて、What do you want to do?やWhat do you want to be in the future?という問いかけもでき、それに答えることができる。 ・ビンゴシートを使って、1分毎に相手を変えていくペア・ワークを実行させるが、NSとも必ずやり取りをさせる。 	<p>JTE</p>	<p>20</p>	<p>表 : What do you want to be in the future?やWhat do you want to do?という相手への問いかけもでき、相手からの問いかけにも答えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・NSとの対話が全てできる。 ・ビンゴシートで3つ以上ビンゴ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NSとの対話がほぼできる。 ・ビンゴシートで2つ以上ビンゴ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・I want to ～.の文はその語順に注意することと～の部分には動詞の原形を入れることや、I want to be の文の語順を注意させて、授業についていかせる。
<p>7. まとめ、次時の予告</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を確認。 ・次時の予告をする。 	<p>JTE</p>	<p>3</p>				
<p>8. Greetings</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・元気よくあいさつさせる 	<p>一斉</p>	<p>1</p>				